

あにわにわ通信

第20号

「あにわにわ」とは、ニュージーランドのマオリ語で「虹」を意味しています。

2013.3.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1

電話：03-5786-3250 FAX：03-5786-3256

E-mail：info@ai-port.jp

URL：<http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

電話：03-6657-8539 FAX：03-3499-8539

E-mail：station@ai-port.jp

URL：<http://www.ai-port.jp>

法人代表理事・恵泉女学園大学大学院教授

大日向 雅美

厳しい冬もようやく終わりに近づき、春の兆しを感じられ始めた二月の末、あい・ぽーとの新たな企画がスタートいたしました。団塊世代前後の男性を対象とした子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座です。本号はその一報告号ですが、巻頭頁に、記念シンポジウムにご登壇下さいました三自治体の市長・部長の皆様からメッセージをいただきました。

「子どもは地域の鏡」

浦安市長 松崎秀樹

この度はシンポジウムに参加させていただきました。ありがとうございます。心配していた参加者数も、会場に溢れんばかりで安心しましたが、その熱気から「子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座」に対する期待と関心の高さを実感しました。

日本一の人口増加率と若いまちを誇っていた

浦安市ですが、現在では子どもの数は減少傾向にあり、高齢化も確実に進展しています。そのような中、定年前後のベテラン企業人を子育て支援に活かすという画期的な試みは、本市としても大きな注目と期待を寄せているところ。シンポジウムの中で「現在、私が子育て施策に積極的に取り組んでいるのは、自らの子育て時代の懺悔からである」とお話をしましたが、私と同じ団塊の世代の方々も、過去の反省を生かして、もう一度子育てに、そして子育て支援にチャレンジしたいと思っている方も多いのではないのでしょうか。かつて大日向先生から「子どもを夫婦の鏡から地域の鏡へ」というお話を伺ったことがあります。子育ては親や家族だけではなく社会や地域が担うものです。今まで地域とは無縁であった企業人の方々もどんどん「地域デビュー」を果たしていただき、子育てに希望が持てる社会と次代を担う子どもたちがたくましく育つ社会を、行政、地域社会とともに総力を

を挙げて一緒につくってくださることを心から願っています。最後に、私も勇気をもらった堺屋太一氏の年齢観革命(戦国時代の年齢×1.1+3)現在の年齢を常に頭に入れて、リタイアされた方々の第二の人生に心からエールを送ります。「子育て・まちづくり支援プロデューサーに期待して」千代田区教育委員会事務局子ども・教育部 次世代育成担当部長 保科彰吾 家族のために一所懸命に働いていた男性が、会社を退職した後に、「さて第二の人生をどうやって過ごしていこうか」と考えた時、何をしている「自身を想像されるでしょうか。やっとなってきた自分の時間を、旅行や趣味に使うという選択肢もあるでしょうが、まだまだ元気なパワーを地域や次代を担う子ども達のために使うという選択肢も一つ加えてみてはいかがでしょうか。子ども達へのサポート力という一般的な、子育て経験のある女性を想像されると思います。が、社会経験を積み重ねてきた男性ならではのサポート力が、今、大きく期待されています。たとえば、教育現場では、今、子どもたちの理科離れが問題になっています。化学関連の仕事の経験を生かして、机上の理科ではなく実践に即した化学の面白さを子ども達に伝えていただくことはできませんか。また、出版関係に従事していた方からベストセラー小説が生まれるまでの話を子ども達にしていただくことで、将来の芥川賞作家が生まれるかもしれません。大日向先生は「これは社会実験です。」とおつ

しゃっています。社会の仕組みや常識を変えるのは、並大抵の努力ではないかも知れませんが、しかし、変えるのなら、その気があるのなら、今がチャンスです。皆さんの培ってきたパワーに大きく期待しています。港区子ども家庭支援部長 北本治 シンポジウム当日は、天気は良かったのですが冷たい風の吹く寒い日で、「あい・ぽーとステーション」の皆さんも一生懸命に参加の呼びかけを行ったと聞いていましたが、果たしてどれだけの参加者があるのか、主催者でない私も少し気がかりでした。しかし、シンポジウムの会場は、約300名の参加者でほぼ満席の状況で、私の心配はまさに杞憂に過ぎなかつたばかりでなく、今回の「子育て・まちづくり支援プロデューサー」のコンセプトに関心のある方が大勢いらつしやることによくわかりました。やはり第一線を退いた男性は何らかの形で地域貢献をしたいという気持ちはあるけれども、後はそのきっかけがつかめずにいるのだと思います。「子育て・まちづくり支援プロデューサー」は、これまで培ってきた各人のスキルを活かしながら、「子育て・まちづくり」に貢献できる人材の育成を目指すもので、果たして養成講座にどのような方々が参加し、どのような展開が期待できるのか今から楽しみに感じています。しかし反面、まだ具体的な考えはありませんが、養成講座を終えられた貴重な人材を、区としても何か活かす術はないか、悩みながらもよく考えていかなければならないと、気持ちを新たにしているところです。

大日向先生は「これは社会実験です。」とおつ



「子育て・まちづくり支援プロデューサー」プロジェクト

養成講座開講記念シンポジウム

～ベテラン企業人が現役時代の名刺で勝負！～

2013年2月24日 13時30分～17時 六本木ハリウッドホール

主催：NPO 法人 あい・ぽーとステーション

助成：住友生命保険相互会社（未来を強くする子育てプロジェクト）

協力：港区、千代田区、浦安市、ハリウッド大学院大学

本日は、たくさんの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

弊社では、平成19年より創業100周年記念事業として子育て支援事業「未来を強くする子育てプロジェクト」を開始しております。このプロジェクトの柱となるのが、NPO との協働事業で、あい・ぽーと様にはプロジェクトの開始当初より多大な協力をいただいています。そして、今年度より新たな取り組みとして本日のこの企画を支援させていただくことになりました。

この事業は、「少子化」と「高齢化」の問題を相互にプラスに転じるモデル事例となると思います。日本の高度経済成長を支えた世代が、今度は地域の人との触れ合いのなかで豊かな老後生活をおくり、またそれにより子育て世代を支えるという好循環が生まれることを期待しております。

皆さまの更なるご活躍を祈念申し上げます。

ご挨拶



橋本 雅博

住友生命保険相互会社
代表取締役専務執行役員

音楽絵本「つきよのくじら」



朗読：梶浦 紀子（子育て・家族支援者）
演奏：御船 あずみ（ヴァイオリン）
浦川 うらら（チェロ）
鈴木 香代子（ピアノ）
演出：蒲原 元（画家）

あい・ぽーとイベント恒例の「音楽絵本」。ピアノ三重奏つきの「つきよのくじら」を、会場を埋めた団塊世代の男性をはじめ、参加者の皆様がゆったりとした雰囲気楽しんでおられました。

2013年2月24日六本木ハリウッドホールにて、「子育て・まちづくり支援プロデューサー」プロジェクト養成講座開講記念シンポジウムを住友生命保険相互会社よりご助成をいただき、行いました。講座の主な受講対象者は定年前後の企業人です。少子高齢化が進行する日本で、ベテランの企業人・社会人・職業人が培ってきたスキルや経験を、子育て支援を核とした「まちづくり」に発揮していただくことを目的としております（詳細は下記大日向代表理事のコーナーをご参照下さい）。

今回の来場者は、団塊世代前後の男性をはじめ、国や基礎自治体の施策担当者、マスコミ関係の方々など、300人を超える方々にご参加いただきました。

シンポジウム終了後の3月2日より、子育てひろばあい・ぽーとで、子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座が始まり、55名の男性たちが熱心に受講されています。

本講座の企画趣旨について（NHK 視点論点 2013/2/13 より一部抜粋）

本法人代表理事 大日向雅美

今、団塊世代前後の方々が定年を迎えています。この世代は高度経済成長を支え、低成長期の厳しい国際競争の中で生きてきた方々です。企業人・職業人として培ってきた技術・経験は地域や国の大きな宝。その宝をこれからは地域の子どもたちのために、地域のまちづくりのために活かしていただきたい、と願って「子育て・まちづくり支援プロデューサー」養成講座を企画しました。

これまで男性にとって地域は無縁の世界。いきなり地域に出てと言われても戸惑うことでしょう。地域の側も、企業人・男性が地域に出てくることを敬遠する傾向がありました。現役時代の肩書きをかざして、地域にはなじめない存在だ、とも言われてきました。

たしかに、肩書きへのこだわり・妙な名誉心は不要です。それは上手に乗り越えていただくことが必要でしょう。でもこの世代が仕事を通して築いてきたものは、肩書き人間のプライドだけではないと思います。「営業」「経理」「人事」「情報システム」「総務」「企画」「製造・技術」等々の部門で磨かれた豊かな発想とスキルと経験、何よりも組織人として生きてきた見識をお持ちです。それが上手に地域に活かされれば、地域も豊かになることでしょう。これまで女性と子どもだけの世界だった地域に、新たな息吹を吹き込んでいただくために、現役時代の企業人の経験を活かして「名刺で勝負！」していただく企画なのです。

具体的な活動として、例えば地域の保育や子育て支援現場等のバックオフィスとしての支援が考えられます。また小学生や中学生が将来の職業観を育むためには、団塊世代の方々が内外の仕事の現場で培ってきた経験談に勝るものはないと思います。さらには今、多くの自治体が外国からの人々を迎え入れています。商社等で世界各国で仕事をしてきた方々が豊かな語学力と異文化経験を地域の国際交流に活かしていただければ、グローバルな観点からのまちづくりができることと思います。認定後の活動については、行政と連携しながら、新たな地域のニーズを発掘し、地域を支えていく提案型の活動を予定しています。まさに行政と企業とNPOの協働で、地域創造を目指した新たな取り組みです。

連携先の行政としては港区と千代田区、浦安市を予定しております。この3つの自治体は、本法人と協働で地域の子育て・家族支援者養成に取り組んでいる自治体です。すでに1100人を超える支援者（ほとんどが女性）が誕生し、施設での一時保育や地域の子育て家庭に出向いての支援に活躍しています。この実績をもとに、今度は男性たちの地域デビューを企画した次第です。企業人が地域に参画して下さることで、地域に新たな可能性が芽生えることを期待しています。

第1部 基調講演

『分かち合いの経済学』から考えた

これからのまちづくり

神野 直彦

東京大学名誉教授・税制調査会専門家委員会委員長

「悲しみの分かち合い」を意味するスウェーデン語「オムソーリー」の解説から講演が始まりました。経済危機をはじめ様々な課題に直面している今日の日本社会は、「分かち合い」をキーワードに「優しさを与え合う」ことで危機を克服できると、熱く語って下さいました。また希望には「受動的希望（手をこまねいても、いつか危機から脱出できるという希望）」と「能動的希望（絶望の淵に立ち、失敗しても失敗しても挑もうとする敗者の頑張りや抱く希望）」の二つがあるが、私たちに必要なものは後者である。ただ待つだけでなく、行動すべきである。「分かち合い」は指導者が創り出すものではなく、社会のすべての人の行動を必要としているからだ。経済学とは利益を追求するものではなく、人が人としての豊かさを実感しながら生きていけるbeing 社会を築くための学問であるとする神野先生のお考えは、未来へ向けての創造の知恵をもつ大切さと勇気を与えていただき、参加者に深い感動を与えていただきました。



第2部 パネルディスカッション

「ベテラン企業人の力を地域に」



パネリストに、浦安市松崎秀樹市長・港区北本治子ども家庭支援部長・千代田区保科彰吾子ども・教育部次世代育成担当部長・日本テレビ宮島香澄報道局解説委員・汐見稔幸本法人代表理事を迎え、大日向雅美本法人代表理事のコーディネートでパネルディスカッションが行われました。自己紹介の際には、男性パネリストからはご自身の子育てを振り返って懺悔の言葉が寄せられて、会場からも笑いが起こる和やかなスタートでした。その後講座の受講者が認定後どのような活動が可能なのか、各自治体ごとの提案に、本企画の今後に大きな期待がもてる話に花が咲きました。会場からは、ご自身の職業経験を交えての本企画に寄せる熱い思いや、地域で活動する際の不安と抱負など、次々に活発な質疑応答が続き、あっという間の2時間でした。今後、子育て・まちづくり支援プロデューサー養成講座の中で、認定者が誕生し、地域で活躍下ることが楽しみです。

【ホームカミングデー】

三月八日(金)に、港区・千代田区の二級認定者の方々を対象とした、第一回ホームカミングデーを開催いたしました。

このホームカミングデーは、特に二級の子育て・家族支援者の皆様同士の繋がりを通して、改めて支援活動の思いを高めて頂くことを願って企画されたものです。積極的に活動して下さい方も、色々な事情で少し活動から遠ざかっている方も、同じ講座を受けた仲間同士。その貴重な繋がりが、次の一歩へと繋がればと願い、梶浦紀子さん(港区「一期」と栗田進二さん(港区「X」期)が実行委員として企画を進めて下さっています。

当日は、港区・千代田区から、八名の方がご参加下さいました。それぞれの近況報告や活動への思い、事務局への提案など、ランチを楽しみながら、実行委員の二人を中心に参加者同士で語り合っていました。

地域や家族環境の変化が大きい中、多様なニーズに対応できる子育て・家族支援者の皆様の活躍がより一層期待されています。

まだまだ始まったばかりの企画ではありませんが、養成講座やバックアップ研修とはまた違った形で、子育て・家族支援者の皆様の輪が幾重にも重なっていくことを事務局も願っております。この、ホームカミングデーの次回の開催は、左記の通りです。二級支援者の皆様のご参加をお待ちしております。

第二回ホームカミングデー

日時:三月二十九日(金)

十一時～十三時三十分

場所:子育てひろば「あい・ぽーと」

【子育て・家族支援者養成講座】

○報告

港区・千代田区・浦安市で新たな、子育て・家族支援者が誕生しました。港区では昨年末から今年三月にかけて、三級認定者三十二名、準認定者一名、二級認定者三十一名、準認定者二名が誕生しました。千代田区では、十二月に二級認定者八名、浦安市では、十二月に二級認定者十七名、準認定者三名、一月に家庭的保育者(家庭的保育補助者を含む)四名が誕生しました。また、高浜市では、昨年度から今年度にかけて、家庭的保育者養成の基礎研修を実施し、三十八名の方が受講されました。さらに来年度からは、基礎研修の修了を目指して見学実習に入る予定です。

各地の子育て事情に合わせながら、子育て・家族支援者の輪が広がっています。支援者の皆様の活躍が、各地で期待されています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

○新規開講情報

五月から、新年度の子育て・家族支援者養成講座が各地で開講されます。各地の開講概要は、左記の通りです。申込方法、日程等の詳細は、事務局までお気軽にお電話でお問い合わせ下さい。子育て・支援の輪が少しでも広がられるよう、お知り合いやご家族の方々など、ご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非、ご紹介下さい。よろしく、お願い致します。

【港区】子育て・家族支援者養成講座

(三級13期)

開講日:二〇一三年五月十七日(金)

～七月二十六日(金)

【千代田区】子育て・家族支援者養成講座

(三級10期)

開講日:二〇一三年五月十三日(月)

～七月二十二日(月)

【浦安市】子育て・家族支援者養成講座

(三級11期)

開講日:二〇一三年五月十日(金)

～七月十九日(金)

【バックアップ研修のご案内】

来年度も、引き続き各自治体でバックアップ研修を計画しています。皆さまの支援活動に少しでもお役にたてるように、事務局でもより充実した内容なるように計画しております。国の施策の動向や、保育に役立つ知識・実技の基礎から応用まで、各地の支援活動の状況に合わせて幅広く計画しております。各地の実施内容日時については、追ってご連絡いたします。

【派遣型活動紹介について】

港区での派遣型一時保育利用希望者の紹介方法について、これまでのFAXによる活動紹介に加えて、あい・ぽーとのホームページでも紹介のシートを閲覧できるようにいたします。閲覧方法等の詳細は、決まり次第お知らせいたします。

皆さまが二級活動として行なって下さっている港区の派遣型一時保育や千代田区の訪問型一時保育事業は、非常にニーズが高まり、利用登録者も毎月増え続けています。できるだけ多くの子育て家庭と支援者の皆さまを繋ぐことが出来るように、事務局でも努めてまいりますので、ご意見等ありましたら、お気軽にお寄せいただけたら幸いです。

【「あい・ぽーと」小さな家ニ通信】

千代田区と本法人との協働で昨年十一月にスタートした、千代田区家庭的保育室「あい・ぽーと」小さな家。毎日、家庭的保育者一名と家庭的保育補助者(一名～二名)が連携しながら、五名のお子さんをお預かりしています。

オープンから四カ月がたちましたが、子どもたちもすくすく成長しています。

家庭的保育事業は、保育園等と同様に児童福祉法上に位置づけられた保育事業です。小さな家では、保育園と同じように毎日決まったお子さんをお預かりしていますが、保育形態は少人数で出来るだけ家庭に近い雰囲気。一人一人に対してきめ細かく対応した保育を出来るところに特徴があります。保育者の方々は、一時保育とはまた違った視点を持ちながら、子どもの成長を見守ったり、保護者とも密接に関わっています。

あい・ぽーとステーションの子育て・家族支援者養成講座では、厚生労働省の家庭的保育ガイドラインに即したカリキュラムを展開し、浦安市と高浜市でも家庭的保育者の養成を行っています。

これからは、三自治体の家庭的保育室の様子を、この紙面で随時ご紹介していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

